

第420回鉄鋼流通問題懇談会

2012年2月21日(火) 14:30

茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟・第一会議室」

議 題

1. 配布資料説明(全鉄連)
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京、大阪、愛知、東北、福井地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇2月例会で発表の各地区景況などアンケート結果
 - (3) 総括：林全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2012年5月24日(木) 14:30 ～

於：日本鉄鋼連盟4階会議室

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2012年2月）

発表項目	発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
		伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	JFE商事	兼松
1. 需給動向(景況感)		荷動きの悪化に伴い各流通在庫のだぶつきが散見されており、暫くは当用買いで調整を続けていく模様。 プラント関連は11月以降低調であったが春先以降の定修が始まる為、これから徐々に回復していくものと思われる。 但し、各品種とも市況は弱含みの状況が続いている。	12月末の薄板三品在庫は前月末に比べ7万2千トン増の431万8千トンと2ヵ月ぶりに増加し、再び430万トンを超えた。12月末在庫は過去10年平均で前月末比6千トン減少していることを加味すると8万トン弱も増加している。1月末は過去10年平均で10万3千トン増えていることから更に積み上がる懸念を強めている。足元では自動車などは挽回生産で高水準の需要があるものの、回復基調にあった建築関連が足踏みしているなど、地域や向け先の違いによって温度差も生じ、先行き不透明感が強い。こうした中、高水準の輸入材の入着や先安感も加わり、マーケットは様子見の気配が強く市況は弱基調で推移している。	建産機の生産は堅調に推移しているが、造船は低調。橋梁の入札は活発になっており、首都圏の建築物は動きつつあるが、中小型の一般建築は低調。12月末の厚板在庫は365千トンで前月比微減となったが、出荷量は前月比3.6%減の180千トンとなり、在庫率は202.8%で適正とされる200%以下を上回った。	棒鋼 引き合いは、12月に一定量を発注した影響もあり、セコンは様子見状況にあり低調。市況は、様子見状況ながら、スクラップの下げ止まり、4月以降の電力料金の値上げ問題により、上伸基調が予想される。 形鋼 足元の需要は、季節的要因もあり、1月中旬より少なく低調。市況はじり安傾向となっているものの、スクラップの下げ止まり、反転傾向から様子見状況。
2. 需要産業動向		首都圏及び東北（仙台地区）の建築工事案件が動き始めたこと、また北海道新幹線工事等の需要が出始め、足場管を中心とする仮設資材が動き始めている。 自動車関連は車種による盛り上がりの程度差はあれ堅調に推移しているが、カーメーカー各社4月以降は減産の見通し。 建機関連は中国向けの依存度が高い分、減産幅が大きい。	12月の自動車国内販売は前年同月比21.7%増の32万台と3ヵ月連続で増加した。生産台数も前年同期比13.4%増の84.8万台と好調を維持している。12月の住宅着工戸数は前年同期比7.3%減と4ヵ月連続で減少しているものの、非住宅は首都圏物件及び震災復興関連等もあり、前年同月比14.2%増と3ヵ月連続で増加した。12月の家電は冷蔵庫、洗濯機、エアコンなど白物が前年同月比24%減、薄型テレビが同75%減になるなど、ともに大幅な減少となった。	造船の12月末手持工事は3,785万G/Tで前月比0.3%増。僅かではあるが前月比プラスとなったが、輸出船契約量は前年同月比2.8%減の120万G/Tと前年実績を下回った。建設機械の12月出荷金額は2,109億円前年同月比9.5%増(24ヵ月連続増)。内需は594億円で24.9%増(9ヵ月連続増)。外需は1,514億円で4.4%増(24ヵ月連続増)。産業機械の12月の受注金額は5,458億円で前年同月比129.0%。内需は2,932億円で104.3%。外需は2,526億円で177.7%と建産機共に堅調に推移。建築関連は首都圏再開発、耐震向けの出件はあるが、一般店売マーケットは相変わらず低調。	2011年12月の新設住宅着工戸数は前年同月比7.3%減の69069戸、4ヵ月連続の減少。新設住宅着工床面積は、前年同月比7.3%減の6135千㎡、4ヵ月連続の減少。持家、貸家、分譲住宅ともに減少。全建築物の着工床面積は、1016万㎡。前年同月比1.2%減。先月の増加から再び減少。そのうち公共の建築主は46万㎡。前年同月比20.8%の減と3ヵ月ぶりの減少。民間の建築主は969万㎡。前年同月比微減と先月の増加から再び減少。
3. 輸出入動向		2011年12月度の溶接鋼管の輸入量は対前月比25%増となっている。 特に韓国材の輸入量が+2,285tとなっている。	12月の薄板三品輸入実績は、亜鉛メッキが前年同月比62.5%増加、熱延が同5.8%増加、冷延が同30.5%増加となったことから合計で16.3%(4万トン)増加の28.9万トンとなった。 一方、薄板三品輸出実績は、亜鉛メッキが前年同月比19.9%減少、熱延が同12.3%減少、冷延が同32.2%減少と軒並み減少したことから合計で18.9%減少の131.7万トンとなった。	12月の輸入実績は49千トンで前月比9千トン減。韓国6千トン、中国3千トン各々減。輸出は282千トンで前月比27千トン減。	輸出 2011年12月の異形棒鋼の輸出量は24341トンで前月比16%の増加、前年同月比では29%の大幅増となった。H形鋼の輸出は37310トン、前月比97%の大幅増、前年同月比では17%の減少となった。溝形鋼は9206トンで前月比74%の大幅増、前年同月比では28%の大幅減となった。山形鋼は、27839トンで前月比、前年同月比とともに10%減となった。 輸入 2011年暦年の形鋼の輸入量は前年比36.8%増の10万6千トン。2011年12月の形鋼の輸入量は1万1千トン、前年同月比67.2%増の5ヵ月連続の増。棒鋼は4千トン、前年同月比8.9%増、3ヵ月連続の増。
4. 海外市場動向		ラインパイプについては旺盛な原油・ガス需要を背景にプロジェクトは総じて活況。北米を中心に非在来型エネルギー（シェールオイル・ガス）開発が活発化している。 油井管は米国リグカウントが昨年末から2,000基前後で推移しており、掘削活動・油井管需要は堅調。他方供給サイドもキャパ増強・新設ミル建設を進めており全体としては供給過多のため、競争激化により価格は軟化傾向となること必須。但し13Cr等ハイエンド品に関してはタイト感が持続している。	米国では12月自動車販売、住宅建設などに改善機運が窺える中、薄板市況は上伸している。一方、ユーロ圏では欧州金融不安からドイツ以外の主要国で12月新車登録台数が前年割れになるなど景気減速を背景に鋼板市況も軟調に推移している。また、中国市場では春節前後も盛り上がり欠け、中国高炉メーカーの3月国内販売価格の値上げも市場の反応は小さく、引続き動向を注視する必要がある。	中国国内市場は需要の盛上がりはなく、且つ生産、供給過剰といった構造的状況に変化はないため、価格に大きな変動はない。	1月の中国国内の鋼材市況は弱基調横ばい。減産による在庫調整、春先から公共工事の増加とともに建設活動が回復し需要の期待により、在庫積み増しが起こり、市況上伸の可能性もあるが、ただ供給過剰が続く為、中期的には鋼材市況は浮き沈みを繰り返すものと思われる。 現状、1月に比べ下落傾向、高速鉄道の建設中止などの要因で鋼材需要が鈍化。
5. トピックス					東京電力は4月から法人向けの電力料金を平均17%値上げを発表。東電管内の鉄鋼業界では年200億円のコスト増。電路業界では60億円から70億円程度の影響が出るものと予測される。

鉄鋼流通問題懇談会 メーカー発言 (2012年2月)

発表者 発表項目	メーカー JFEスチール
1. 需給動向 (景況感)	<ul style="list-style-type: none"> 日本経済は、個人消費を中心に緩やかな回復基調を維持している。12月の個人消費は総じて堅調で、1月の新車販売台数もエコカー補助金の復活等から大幅増となっている。12月の鉄工業生産は、タイ洪水影響から脱し、大幅な上昇(前月比+4.0%)に転じており、先行きも上昇が予測されている。海外では、米国においては主要な経済指標が堅調に推移しているが、欧州では債務危機が依然景気低迷のリスク要因となっている。一方、新興諸国では金融引き締め策緩和の動きが継続している。 国内では、1月の粗鋼生産は前年比▲10.6%の863万トンと5ヶ月連続で前年を割り込んだ。普通鋼鋼材出荷(12月)は前年を上回ってきたものの、輸出は円高、タイ洪水影響などにより、2ヶ月連続で前年比二桁減となった。一方、12月の普通鋼鋼材輸入は24ヶ月連続の増加となり、3ヶ月連続で40万トンを超える高水準となっている。こうした中、12月末の普通鋼鋼材在庫は558万トンと前月末から7万トンの増となっている。なお、2011暦年の粗鋼生産は、東日本大震災などの影響もあり、前年比▲1.8%の1億760万トンと、2年ぶりに減少となった。 海外では、12月の世界粗鋼生産が、前年比+1.7%の1億1706万トンとなり、この結果2011年の世界粗鋼生産は、15億2690万トンと史上初めて15億トンを突破した。中国では、足元生産調整の動きが見られているが、中国からの輸出は依然高水準を維持している。また、韓国では生産能力増強を背景に、粗鋼生産、鋼材輸出は過去最高水準で推移している。海外市場は、米国では年明け後も市況が上昇基調にあるが、中国では旧正月後の反応は鈍く、今後例年の力強さがみられるのかどうか注目されている。 内需は概ね順調に回復しているが、アジアにおける鉄鋼需給緩和、欧州金融不安、円高に伴う輸入鋼材増と国内産業の空洞化懸念など、日本鉄鋼業を取り巻く環境は依然厳しい。引き続き内外の経済動向、鋼材需給動向等へ細心の注意を払っていく必要がある。
2. 需要産業動向	<p>[建築] 12月新設住宅着工戸数6.9万戸(前年同月比7.3%減)。4ヶ月連続前年比減。 年率換算着工戸数78.3万戸。11暦年では83.4万戸(前年比2.6%増)と2年連続で増加。</p> <p>[自動車] 1月国内販売40万台(前年同月比36.9%増)。4ヶ月連続前年比増。 12月完成車輸出46万台(〃2.2%減)。5ヶ月振りの前年比減。11暦年では446万台(前年比7.7%減)。 12月四輪車生産85万台(〃13.4%増)。3ヶ月連続前年比増。11暦年では840万台(前年比12.8%減)。</p> <p>[産業機械] 1月工作機械受注 前年同月比6.6%減の977億円。09年11月以来2年2ヶ月振りの前年比減。</p> <p>[造船] 12月末手持工事量 3,785万GT(前月比0.3%増)。10年8月以来16ヶ月振りの前月比増。</p>
3. 輸出入動向	<p>[輸出] 12月の全鉄鋼輸出は、313万トン、前年同月比15.3%減と10ヶ月連続前年比減。</p> <p>[輸入] 12月の普通鋼鋼材輸入量は、前年同月比35.0%増の41万トンと24ヶ月連続で増。前月比では2ヶ月連続減。 国別では、韓国(前年比43.1%増。26ヶ月連続増)、中国(〃60.6%増。2ヶ月振り増)、台湾(〃1.7%増。3ヶ月連続増)。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> 中国の12月粗鋼生産は、5,216万トン(前年比0.7%増)。11暦年では6億8,327万トン(前年比8.9%増)と過去最高を更新。中国からの1月の輸出は、373万トンと前月比1万トン増とほぼ横ばい。9